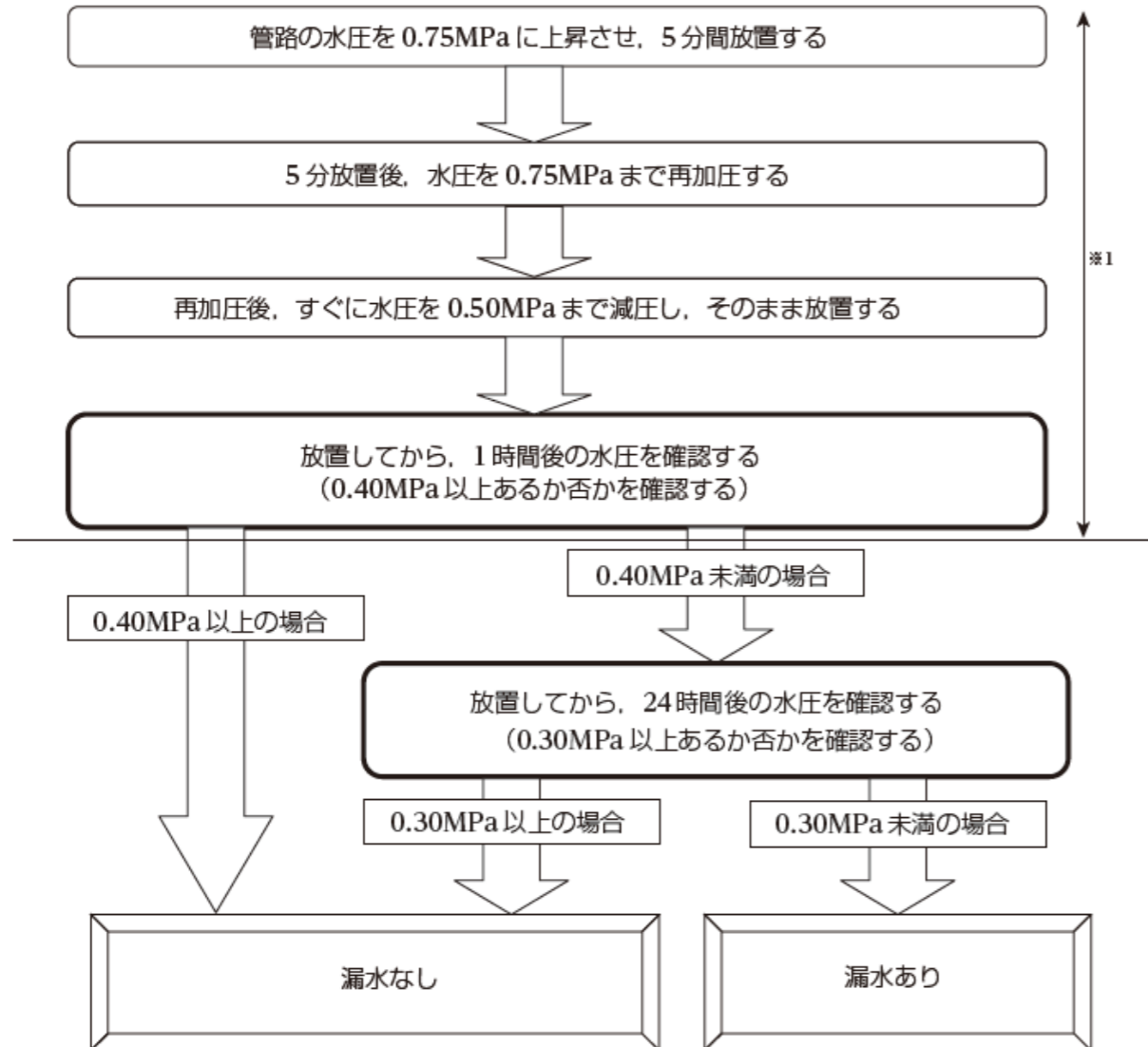
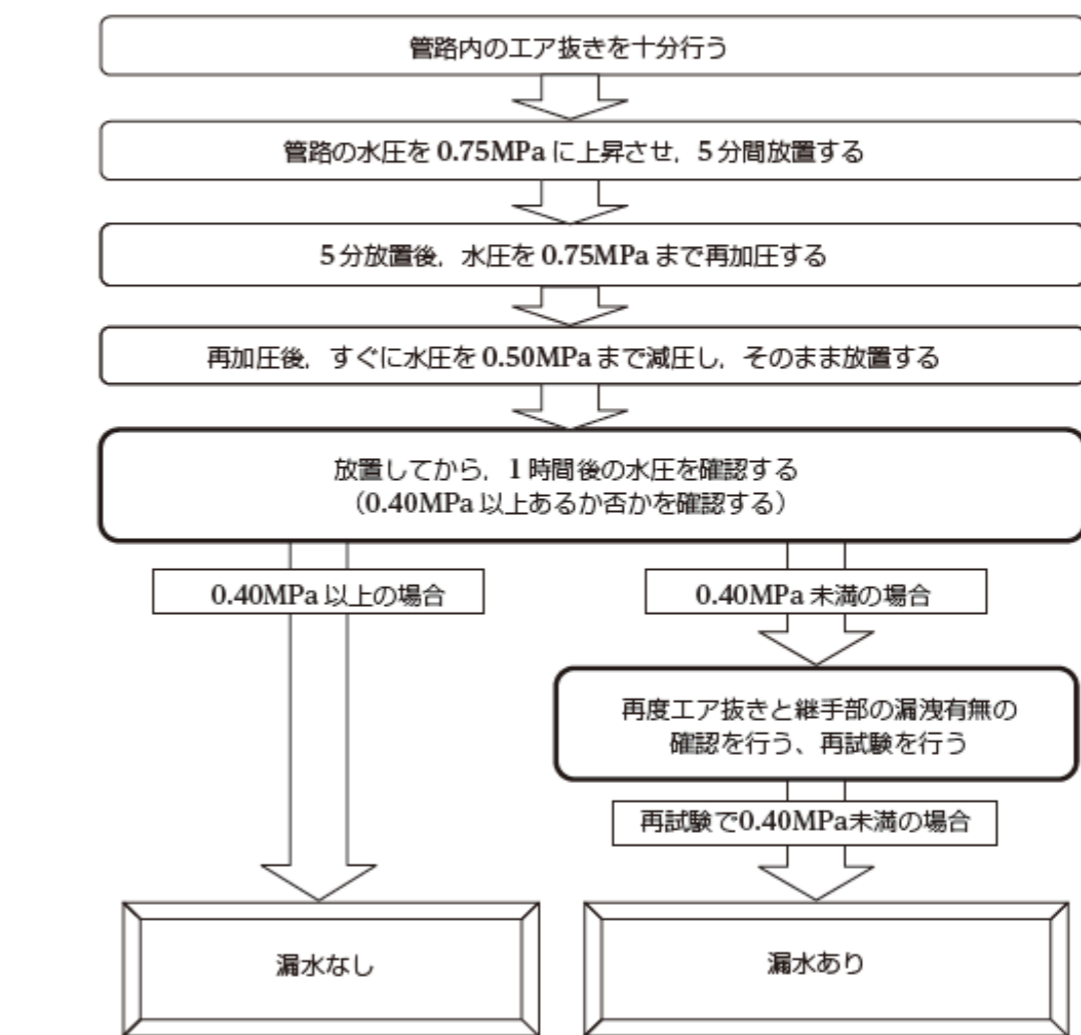


頁	改訂前	改訂後
89	<p style="text-align: center;"><b>第4章 地中熱交換器 4.5 水圧試験</b></p> <p><b>4.5.1 水圧試験方法</b>                      水圧試験は、送水ポンプまたはハンドポンプを用いて実施する。水圧試験の流れを図4.5.1に示す。</p>  <p style="text-align: center;">図 4.5.1 水圧試験方法</p> <p>※1 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」基準                      ※2 配水用ポリエチレンパイプシステム協会「水道配水用ポリエチレン管及び継手 施工マニュアル」基準</p>	<p><b>4.5.1 水圧試験方法</b>                      水圧試験は、送水ポンプまたはハンドポンプを用いて実施する。水圧試験の流れを図4.5.1に示す。</p>  <p style="text-align: center;">図 4.5.1 水圧試験方法</p>

**4.5.2 水圧試験時の注意事項**

- ① 水圧試験は最後の EF 接合終了後、最低 1 時間経過してから実施すること。
- ② 通水はバルブ等を開いて管内の空気を除去しながら行う。満水になったら試験区間のバルブを閉じ、水圧計により圧力低下の有無を確認する。

**4.5.2 水圧試験時の注意事項**

- ① 水圧試験は最後の EF 接合終了後、最低 1 時間経過してから実施すること。
- ② 通水はバルブ等を開いて管内の空気を除去しながら行う。満水になったら試験区間のバルブを閉じ、水圧計により圧力低下の有無を確認する。
- ③ 試験の際の注意点として、樹脂管は水圧試験時に圧力をかけると樹脂の特性として初期膨張が起こり圧力が低下する。水圧低下量は、埋設条件や管径、管路長および初期水圧値により変わるため数値表現は困難であるが、試験圧力が低下しても合格範囲内であれば滯水はないと判断するので、樹脂の特性を理解して試験を行うことが必要である。

【参考】図 4.5.1 水圧試験方法で『漏水あり』の場合、配水用ポリエチレンパイプシステム協会「水道配水用ポリエチレン管及び継手施工マニュアル」では 24 時間後の残圧確認で 0.3MPa 以上であれば合格との判定方法もあるが、当協会としては 1 時間後の漏洩判定を推奨する。